

令和4年度 牛津中学校評価計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	「確かな学力の育成」については、全職員による相互参観授業や効果的にICTを活用することで、授業の質が向上し、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。家庭学習等の取り組みについては、基礎的な知識の定着と家庭学習の習慣づけを行うため、さらに工夫・改善を行う必要がある。「豊かな人間性の育成」については、約9割の生徒が望ましい学年・学級集団づくりをされていると答えたことから、学級活動や道徳等の授業、行事等を通して、「思いやり」や「感謝」について考えることができた。「健やかな体の育成」については、9割以上が「健康教育」を通じて、自他の命を尊重する態度が育ったと思う生徒や健康に食事は大切であると生徒が答えたことから、健康や安全に対する意識を高めることができたと考えられる。
--------------------------	---

2 学校教育目標	豊かな人間性を培い、志を高く学び続ける生徒の育成 ～ 主体性を高めることを通して ～
-----------------	--

3 本年度の重点目標	① 確かな学力の育成：基礎的基本的な学習内容の定着と家庭学習の習慣化を図る ② 豊かな人間性の育成：支持的風土をもつ集団づくりを推進し、感謝する心の育成を図る ③ 健やかな体の育成：健康、安全に対する意識を高め、基礎的な体力の向上を図る
-------------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員を80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修で授業参観を全員が行い、成果指標の達成を目指す。
	○効果的にICTを活用した授業の実践	○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を100%にする。	・ICT利活用研修を数回実施し、職員のICT利活用能力を向上させる。 ・一人1回の参観授業を行い、積極的な授業でのICT利活用を目指す。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒一人一人が安心して生活できる学級集団づくりを推進し、道徳の学習を通して、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケートで検証しながら、割合を75%以上にする。	・学年職員全員で道徳の授業を行い、人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合いを支えあえる学年・学級集団づくりの推進を行う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生徒のつぶやき等、生徒の変容を常に観察し、定期的な調査等(月に1回)を実施する。	・生徒指導部会や生徒支援部会の運営を充実させることで情報を共有し、職員研修等で職員のスキルアップを図り、いじめの未然防止に努める。 ・QUの実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。
	◎支持的風土に根ざした望ましい学級集団づくりの推進	○アンケートで、「思いやり」「感謝」の心をもつ割合が80%以上、「自己肯定感が高い」生徒の割合を75%以上とする。 ○QU実施の2回目は各学級の学級生活満足の割合を1回目実施より増やす。	・年2回のQU実施とその検証に基づき安心して生活できる学級集団づくりを目指す。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上	・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな命を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。
	○健康・安全教育の推進	○健康教育や予防教育を年1回計画し実施する。	○自分の体のことを知り、健康を守ろうとする意識を高めるために、学校医等の外部講師による保健指導を工夫する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動の活動時間や活動内容の適正化を図る。 ・定時退勤推進日の設定を行うとともに声かけを行う。
	○チームを意識した効率的な業務の推進	○効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり、前年度比5%削減する。	・チームによる組織的な対応を進めることで負担軽減を図るとともに、風通しのよい職場環境づくりを進める。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○小中連携	○小中連携による学力向上の取り組み	○小中による授業参観を学期に1回行う。	・小中による授業参観後、情報交換会を行い、課題、今後の取り組みについて共有する。
○特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図る	○教職員の共通理解・共通実践により支援を要する生徒の進路希望に添えるように努める。	・支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、コーディネーターを中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣が必要となきには機会を設け、保護者との連携を図るとともに専門家からの助言を支援に生かす。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育